

瑞浪駅北地区複合公共施設 提案書概要

【施設コンセプト】「市民や東濃地域のサードプレイス」

【導入機能】①資料・情報提供機能 ②集会・交流機能 ③滞在サロン機能

1. 事業方針

瑞浪の穏やかな暮らしを体現するサードプレイス

サードプレイスの全体像

・本施設は都会とは異なる、自然豊かな瑞浪ならではの穏やかな暮らしを体現する「サードプレイス」でありたいと考えています。それは、家庭でも職場でもない“もうひとつの家”のような場所です。この場所が、文化的な拠点として市民の心に充足感をもたらし、市民活動を通じて社会とのつながりに生きがいを感じられるような、心の拠り所となり、この場所を通して未来の子どもたちに誇りを持って引き継げるまちづくりへとつなげていきます。



2. 設計コンセプト

集い、交流し、学び、瑞浪の魅力を体験することができる いつも立ち寄りたくなる瑞浪市民の“もうひとつの家”

① 瑞浪が更に好きになる、まちの顔になる施設

- ・まちの顔となる、新しい駅前風景を創出します。建物ファサードはガラスで構成し、内部のにぎわいが北側ロータリーや駅施設から感じられる、開放的で立ち寄りたくなる施設を計画します。
- ・瑞浪は川や山、豊かな自然に恵まれており、市民が日常生活で意識していない自然や文化、歴史を再発見し、学び、愛着を持つことができる施設を計画します。



② 学び、活動、文化に触れる場が同居する、瑞浪市民の“もうひとつの家”

- ・市民が集い居心地よく過ごし、その風景が子どもたちの本施設での思い出となり瑞浪をより好きになる、それぞれの機能から賑わいが感じられる施設を計画します。
- ・館内には様々な場所に閲覧、学習コーナーを配置し、利用者の目的や気分に合わせて居場所を選べ、オープンラウンジや多目的ルームにおいてはニーズの高いイベント開催や施設利用が可能となる多様で多機能な使い方を想定し、学びや活動の姿が館内に広がる計画とします。
- ・多目的ホールや多目的ルームにはイベントがない日も一般開放や時間貸しを行える、柔軟性の高い施設を実現します。
- ・施設内に瑞浪に由来する展示物を配置し、施設を利用することで瑞浪の文化や産業に触れることができ、町への愛着を深まる施設を計画します。

3. 運営体制

- ・カルチャ・コンビニエンス・クラブ（代表企業・総括運営・維持管理）
- ・梓設計（構成企業・設計工事監理）
- ・ライフ・クリーンサービス（構成企業・維持管理）

・OD方式の特徴を活かし、運営・維持管理事業者が利用者目線で設計企業へ意図伝達を行い、伴走しながら、密にコミュニケーションをとることでディテールまでこだわり抜いた施設を実現します。

4. 運営取り組み方針

図書・活動・歴史・表現が交差する未来型公共空間

① 居心地の良い交流と賑わいの場をつくる

- ・図書資料を借りる場から、滞在して過ごす居心地の良い空間（家のような空間）へと転換を図ります。ライブラリーとカフェを融合させ、サードプレイスとしての価値を高めます。



＜空間とカフェ利用のイメージ＞

② 学びや活動を通じて、社会との関わりを楽しむ

- ・施設内外で、人々が学び、活動する姿が自然に広がる環境を整備します。オープンな空間で人々が学び、活動の様子が視覚的に伝わるようにすることで、他者の自主的な学びや取り組みを目にする機会を創出し、利用者自身の学びへの意欲を喚起し、活動への参加を促します。
- ・活動を始めたい方が気軽にチャレンジできるよう、コミュニティマネージャーによる支援サービスを充実させ、誰もが一歩を踏み出せる場を提供します。



＜オープン空間でのイベントイメージ＞

③ 町と歴史への愛着と理解を深める

- ・まちの発着点である駅前において、自然豊かな瑞浪を感じられる施設として、家に帰ってきたような安心感と郷土への愛着が感じられる施設にします。
- ・町の団体、プレイヤーと連携した賑わいイベントの開催や施設内の展示スペースに加え、情報発信の場を設けることで、地域の歴史、産業を発信していきます。地域の子どもたちへのキャリア教育の観点から職業体験の受け入れや学校との連携プロジェクトも実施予定です。



＜賑わいイベントイメージ＞

④ 町との関わり

- ・公共図書館での学びや活動の支援を通じて、市民が自らの一歩を踏み出すことを、後押ししたいと考えています。
- ・中心市街地活性化プロジェクトや文化事業、図書館ボランティア、まちづくり協議会等と積極的にかかわっていきます。



＜地域のプレイヤーと連携イメージ＞